

製品名: リン酸化 SHIP (Y1020) (11Q1) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe06004**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	人間
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000
分子量	133kDa

抗原情報

遺伝子名	INPP5D Phosphatidylinositol 3,4,5-trisphosphate 5-phosphatase 1; Inositol polyphosphate-5-
別名	phosphatase of 145 kDa; SIP-145; SH2 domain-containing inositol 5'-phosphatase 1; SHIP-1; p150Ship; hp51CN; INPP5D; SHIP;
遺伝子 ID	3635.0
SwissProt ID	Q92835
免疫原	ヒト SHIP-1 の Tyr1020 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

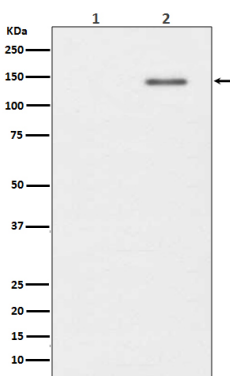
背景

SH2 含有イノシトールホスファターゼ 1 (SHIP1) は、ホスファチジルイノシトール-3,4,5-三リン酸をホスファチジルイノシトール-3,4-二リン酸に加水分解する造血ホスファターゼです。SHIP1 は細胞質ホスファターゼであり、アミノ末端に SH2 ドメイン、カルボキシ末端に 2 つの NPXY Shc 結合モチーフを有しています。細胞間接合の制御、好中球における CD32a シグナル伝達、および EGF 誘導性ホスホリパーゼ C 活性の調節に関与しています。ホスファチジルイノシトール (PtdIns) ホスファターゼは、ホスファチジルイノシトール-3,4,5-トリスリン酸 (PtdIns(3,4,5)P3) の 5-リン酸を特異的に加水分解して PtdIns(3,4)P2 を生成し、それによって PI3K (ホスホイノシチド 3-キナーゼ) 経路を負に制御します (PubMed:8723348、PubMed:10764818、PubMed:8769125)。ホスファチジルイノシトール-4,5-ビスリン酸 (PtdIns(4,5)P3) およびイノシトール 1,3,4,5-テトラキスリン酸 (PubMed:9108392、PubMed:10764818、PubMed:8769125) の 5-リン酸も加水分解できます。B 細胞抗原受容体シグナル伝達の負の調節因子として機能します。FC- γ -RIIB 受容体 (FCGR2B) からのシグナル伝達を媒介し、活性化免疫/造血細胞受容体システムからのシグナル伝達を終結させる中心的な役割を果たします。骨髄細胞の増殖/生存および走化性、肥満細胞の脱顆粒、免疫細胞の恒常性、血小板のインテグリン α -IIb/ β -3 シグナル伝達、および B 細胞の JNK シグナル伝達の負の調節因子として機能します。破骨細胞前駆細胞の増殖、マクロファージのプログラミング、貪食および活性化を制御し、エンドトキシン耐性に必須である。細胞間接合の制御、好中球における CD32a シグナル伝達、および EGF 誘導性ホスホリパーゼ C 活性の調節に関与する (PubMed:16682172)。走化性に必要な前縁形成と分極を制御することにより、好中球遊走の重要な制御因子である。NK 細胞において FCGR3/CD16 を介した細胞傷害活性を調節する。Smad 依存性発現を介してアクチビン/TGF- β 誘導性アポトーシスを媒介する。

研究分野

ホスファチジルイノシトールシグナル伝達系;B 細胞抗原;Fc イプシロン RI;Fc ガンマ R を介した貪食作用;インスリン受容体;

画像データ



(1) Raji 細胞溶解物、(2) 過バナデート溶解物で処理した Raji 細胞における Phospho-SHIP (Y1020)発現のウエスタンブロット分析。